

ごめんなさいから始めよう



狛江第五小学校 五年一組

宮川京子

私のクラスはこの前、おかあさんの木を先生によんでもらった。戦争は、このお話のお母さんにとってとてもつらいのだと思う。

なぜなら帰ってくる保証もない戦争に自分の七人の息子が行ったからだ。戦争中、このお話のお母さんは、ずっと息子達の元気で帰ってくるすがたを待っていたのだ。

そして終戦の年の冬、七人の息子の五郎が帰ってきた。だが、お母さんは五郎のきりの木によこたわってもう目をあけてくれなかった。なんて悲しい事だろう。

私たちの未来にこんなことぜったいないといい。

私は、いつも考える。同じ地球に住んでいる人達がなぜ戦争をするのかを。小さなきっかけがだんだん大きくなって大問題になるのだ。小さなきっかけの時点で

「ごめんなさい。」

と、あやまればよいのに。

でも実際には、そんなかんたんにはいかないものかもしれないが、そういう風になってほしい。

「あっちがあやまるまであやまらない。」

と、いうがんなきな心を持つ人もこの世の中にはいるが、それじゃあ仲直りができない。もっと素直になればいいのに。

この世の中に戦争をおこさないための一つの方法。それは、
「ごめんなさい。」

と、素直に言える心を持つ事かもしれない。それで、少しでも平和に近づけばいいと思う。



カラスウリ。